

平成 1 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	7 8	学校名	牛久栄進高等学校					課程	全日制		学校長名	村 松 輝 美				
教頭名	市 村 仁		的 場 伸 一							事務室長名	石 上 信 男					
教職員数	教諭	5 9	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	1	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	2	計	7 8
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		136	186	137	182	160	160	-	-	433	528	2 4			

2 目指す学校像

情報化・国際化・高齢化等激しく変化する社会にあって、それらに柔軟に対応できる力を育むと同時に、豊かな人間的資質を培い、自主自律の態度を養い、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	授業時間確保の観点等から55分授業を導入し、効果的な授業展開に努めている。「1分を大事にする」意識が定着し、チャイムからチャイムまでの授業が実践されている。	それぞれの教員が持っている高い専門性を授業に生かすため、授業方法等に関する研修をいかに充実させるか。
特別活動	生徒の学校行事への取り組みは積極的であるが、本部役員への立候補者などでは、定数確保に苦慮する面もある。部活動への加入率は61.5%と、極めて活発である。	生徒会や常置委員会の存在意義とその必要性について理解させ、いかに生徒の自主的取り組みを活発にするか。
生徒指導	86.3%(1年次)の生徒が「本校での学校生活に満足している。」と回答している。少数ではあるが5分以内の遅刻者や女子における頭髪等で指導を要する生徒がいる。	集団における個の役割を自覚させると共に、時間や校則を遵守させることを通して、規範意識をいかに高めるか。
進路指導	ほぼ全員が進学希望であり、より高い進路実現に向けて職員・生徒が連携し、学校一丸となって取り組んでいる。特に、国公立大学には現役で68名の合格者を出した。	早い年次から安易に受験教科・科目を減ずることなく、3年次まで授業を大事にした学習をいかに継続させるか。

4 中期的目標

1 『活力ある進学校』 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす、「活力ある進学校」を目指す。
2 『個に応じた学習指導』 「自分で作る時間割」を通して、個に応じた、より深い探究学習を展開する。
3 『自主独立の人づくり』 単位制のシステムを生かして、自分の未来を自分自身で拓く、「自主独立の人づくり」を目指す。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	個々の生徒の学力に応じた効果的な学習指導の実施 集団における自己の在り方を学ばせる特別活動の実施 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の実施 個に応じた職業観・進路観の育成を図る進路指導の実施	習熟度別学習を導入すると共に、教科毎に教科指導に関する事例研究等を実施し、授業方法の工夫・改善に努める。 生徒会や常置委員会の活動内容を明確にし、自主的活動を活発化させると共に、部活動への加入を奨励する。 全職員による登校指導などを通して基本的生活習慣の確立を図る。特に「挨拶」と「服装」について、指導を徹底する。 個別面談を充実させると共に、CESタイムの小論文指導などにより、個人の適性や能力に応じた進路観の育成を図る。	
2年次	授業に生かす教科指導力の向上を図る学習指導の実践 学校行事への主体的な参画を促す特別活動の実施 社会のルールを尊重する心を育成する生徒指導の実施 適性・能力の把握と将来展望に基づいた進路指導の実施	活力ある授業を実践するため、学校全体での公開授業や相互授業参観等を実施し、各人の教科指導力の向上に努める。 計画的なHR活動を基盤として、生徒の学校行事や部活動への主体的・創造的な参加を促進する。 日常の学校生活を通して、善悪を明確に判断・指導し、校則などを遵守する意義とその必要性を理解させる。 自分の適性や能力を的確に把握し、ガイダンスや講演会等での情報を元に、将来展望に基づいた進路観を育成する。	
3年次	主体的な学習態度の確立を図る学習指導の実施 自発性やリーダーシップを育成する特別活動の実施 自らを律し相手を思いやる心を育てる生徒指導の実施 生徒自らが主体的に目標を設定する進路指導の実施	個別面談を通して授業を重視する態度と学習意欲を高めると共に、家庭における各年次の最低学習時間を確保させる。 生徒を主体とした学校行事の企画運営及び勉学との両立を目指す部活動を奨励し、リーダーシップを育成する。 奉仕活動やボランティア活動などを通し、他を思いやる心を育むと共に自己を律する心の強さを育成する。 自己の適性や能力に応じて、主体的に目標設定ができるよう、時機を得た具体的な情報提供・助言が出来るようにする。	